

今回私がこの見学会に参加したのは、グローバル社会で活躍している方々の実際の経験を生でお聞きしたかったのと、自分が興味を持っている職業である研究の仕事を外からだけではなく内からも見てみたいと思ったからです。そして、私は二日間の日程の中で普段は得られない貴重な経験をたくさんさせていただきました。その中でも特に印象に残ったことについて書きたいと思います。

まずは、ディレクトフォースでの田中信男さんの講話についてです。田中さんは元国際エネルギー機関 IEA 事務局長で、現在は笹川平和財団理事長をなさっている方です。その日は主に IEA での経験を話してくださいました。話の全体を通して気づいたことは、常に自分の目線・日本の目線だけではなく、相手の目線・世界の目線で物事や状況を見ているということです。例えば、最近問題視されている石油エネルギーについて。日本の目線だけで捉えれば、石油が採れない上にたくさん消費するのでできるだけ安く、大量に輸入したいと考えます。しかし、国際的な機関で常に全体を見渡して調節などをしなければならない立場は、自国の利益を主張してばかりでは務まりません。そこで、様々な国の目線で見ていくまったく異なる見え方が出てきます。石油国の中東の国々などではもちろんできるだけ高く売りたいと考えます。また、それらの国々は石油輸出国機構 OPEC などをつくっています。中国やインドなど人口が多く、現在急激に発展している国は今以上にたくさんの石油を必要としています。他にも、石油をめぐる争いや紛争なども非常に重要になってきます。このように様々な考えや問題が絡み合う中で、IEA がすることは、石油市場の調整や問題の解決に繋がる対応です。さらに、石油に代わる新たな資源についても考えなければなりません。田中さんはこのような内容の話を笑顔でお話していましたが、実際にはものすごく大変で、誰もが努力してできることではないと思います。エネルギーに直接関わらないように思えるような色々な政治状況や事件などにも注意を払っていかねばなりません。そしてただ考えるだけではなく、それぞれの国の代表・トップの前で自分の意見や考え、提案、時には反対意見を出さなければいけないこともあります。国際機関で働くことは私が思っていたよりもずっとずっと多種多様なスキルが必要だとわかりました。

講話の後には笹川平和財団と日本財団、ディレクトフォースの役員の中の数名の方々のお話を聞かせていただきました。どの人も海外で勤務したことがある方ばかりで、いろいろな体験談やアドバイスをいただきました。たくさんのお話の中から、何人かに共通していたことをピックアップしたいと思います。まずは、世界を自分の目で見るのが何よりも大切だということです。日本にいと、その安全で豊かな生活が当たり前だと思ってしまいます。しかし、日本ほど治安のいい国は他にはないし、これだけ国民の大半が普通の生活を送れている国も数少ないと言われています。海外に行ってみると国内には見ることのできないものにたくさん触れることができます。また、文化や価値観の違いを知ることも大事だとおっしゃっていました。ふたつ目は、海外に出向くときに大事なものは、向こうの文化や価値観、近代史などを知り、自分の国のそれらを押し付けないことです。それは、自分の意見や考えを伝えないこととは全く異なり、相手の文化などを尊重し受け入れることです。そのことに気をつけていれば、対立することなく円滑なコミュニケーションをとることができます。

ディレクトフォースを通してグローバル社会での経験やその経験から得た知識やアドバイスなどを本当にたくさんいただきました。今は海外への派遣などが普通になっている時代です。語学力はもちろん、今回学んだことは将来の仕事に必ず生かされると思います。

次に東京大学分子細胞生物学研究所の小林武彦教授への訪問です。小林教授の研究室ではゲノムや遺伝子を調べ、寿命の長さなどについて研究しています。はじめに高校生にも理解できるような簡単な研究内容の説明をしていただき、その後は研究室の見学や器具の紹介、実際に使わせてもらったりしました。また、いつでも教授や案内や説明をしてくださる研究者の方々に質問をできたので、自分が知りたかったことやその場で疑問に思ったことを解決できてよかったです。研究の仕事は普段はどのような場所でのどのようなことをしているのかわかりにくいところがありました。しかし、今回の訪問で訪問前よりもずいぶんとこの仕事について理解が深まったと思います。まず、私が驚いたことは、同じ研究所・研究室でもそれぞれ違うことを研究しているということです。もしかすると常識なのかもしれませんが、私にとっては新しい発見でした。研究室には若い研究者も多くいましたが、ひとりひとりが目標を持って自分の研究をしていると話していました。科学が発展し、世界中の研究者がいる中でどのように他の人と重複せず、なおかつ自分の興味がある研究を探せるのかと尋ねてみると、まずは自分が研究したいことを決めてその後からその分野に関する論文を大量に読み、発表されていないことや、完結していない研究を探すのだと教えてくださいました。そんなに簡単に見つかるものかと思いましたが、意外とあるんだよと笑っていたので、多分まだまだ人間が知らない未知の世界がたくさんあるのだと思います。そして、研究をしていると予想していた成果や結果が出なくて落ち込むことや諦めそうになることもあるけど、変化が現れたり結果が出たりしたときの達成感や感動に仕事のやりがいを感じているとお話も伺いました。やりがいを感じながらただひたすら誰も知らないことを発見しようとしている姿はかっこよかったです。そのほかにも、器具の説明の際には、現在は新しい優れた研究器具が開発されているので、それに伴い研究できる範囲も広がっていくということも分かりました。また、自分の興味のある分野の最前線の研究や、学びたい教授が海外にいる場合は、海外に留学することも多いそうです。実際に私が訪問した研究所の中にはかなりたくさんいたと思います。留学をしない場合でも国際的な研究発表の学会などにも出席するようになるので、英語は必須です。専門用語などは、初めは分からなくても論文などをたくさん読んでいるうちに自然と身に付くし、書けるようになるそうです。

この二日間を通して得たものはこれからの人生の糧になると思います。この経験が無駄にしないためにも、自分の将来について真剣に考え、今の自分にできることを見つけていきたいと思っています。最後にこの研修でお世話になった多くの方々、チャンスを与えてくれた両親、そして、企画をしてくださった二高の先生方、本当にありがとうございました。